

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2010年9月調査結果-

2010年10月8日

調査要領

- 調査期間 2010年9月15日～22日
- 調査対象 200社
- 回答企業 127社
- 回収率 63.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を合致回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値＝（増加・好転などの企業割合）－（減少・悪化などの企業割合）
業況・採算：（好転）－（悪化） / 売上：（増加）－（減少）

旭川市概況

※全産業の9月の状況を見ると業況DIは、前月より3.5ポイント悪化の▲43.3。

平成7年4月調査開始以来186ヵ月連続マイナス2桁水準で推移している。

業種別では、建設業・サービス業の2業種で回復となった。

※向こう3ヵ月の先行き見通し業況DIは▲58.3と悪化しており、依然として厳しい状況である。

業種別でみると、建設業・製造業・卸売業・小売業の4業種が悪化しており、地域経済や足下の景気感は依然として厳しい状況となっている。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
業況	▲37.8	▲34.1	▲40.5	▲32.3	▲39.8	▲43.3	▲58.3
売上	▲20.0	▲22.5	▲23.7	▲21.0	▲28.9	▲34.6	▲46.5
採算	▲29.6	▲21.7	▲29.0	▲26.6	▲34.4	▲40.9	▲52.8
仕入単価	▲34.1	▲27.9	▲26.0	▲31.5	▲21.1	▲30.7	▲27.6
従業員	▲7.4	▲9.3	▲8.4	▲12.9	▲9.4	▲11.8	▲15.7
資金繰り	▲16.4	▲12.4	▲13.0	▲14.5	▲20.3	▲16.5	▲29.1

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
建設	▲50.0	▲42.9	▲51.7	▲50.0	▲60.7	▲58.6	▲65.5
製造	▲22.6	▲19.2	▲26.9	▲4.1	▲25.9	▲25.9	▲48.2
卸売	▲28.1	▲17.3	▲39.3	▲19.2	▲14.8	▲22.2	▲40.8
小売	▲34.8	▲33.4	▲37.5	▲29.2	▲29.2	▲45.4	▲72.8
サービス	▲61.9	▲63.6	▲45.9	▲59.1	▲72.8	▲68.2	▲68.2

今月のトピックス（業界の声）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・今年前半が工事の着工遅れで、完工高が前年比減少したが、9月以降の工事量は前年比増加しているため、前半の減少部分は多少取り戻せそうである。しかしトータルでは、前年の売上げを維持するのがやっとという状況である。経費削減で頑張っているが、収益の改善は当分の間見込めそうにない。 ・最低制限のない一般競争入札は、設計価格の50%という数字がでており、ますます前途多難である。 ・停滞の状況が続いている。従業員および下請業者の調整を考えなければならない状況。 ・新築契約は前年と横ばいであり、低レベルの対比となっている。今年度の工事はまだ不足の中、来年度の繰越工事も確保しなければならず、棘の道が業界では続くのではない。 ・売上は幾分回復してきたが、採算が悪い。また資材の高騰感あり、まだまだ厳しい。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・マンション・戸建住宅の新築着工が低迷する中でリフォームに伴う引き合いが、年々増加してきている。このリフォーム市場に対しても、更に注力していきたい。 ・スーパー本体で製造するものが増えている。また、低価格の卸売業者も参入しているため、厳しい業況。 ・年内の仕事は十分に確保したが、年明けの状況は全く読めない。現在の円高傾向の影響が懸念される。 ・鋼材の値上がりを通告されているが、客先に価格転嫁を要請しにくい状況である。 ・ここ2~3ヵ月低迷気味になってきている。これは政治状況の混迷などで先行き不安による消費の低迷を引き起こしているのではないと思われる。
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・半期決算を迎えるが、天候不順・急激な円高などにより明らかにペースダウン。ちょうど±0となり、後半の動きが心配。 ・大型書店の進出により、既存店への打撃大となり今後の成り行きが非常に心配。書籍・文具・CD扱店の売上が20~30%ダウン。 ・日本列島を襲った春先からの天候不順による特に生産物の生産量・品質の低下による影響は大きく、数字に表れた。また、仕入れ面・経費面に対しては円高の影響による恩恵に恵まれたと思う。 ・前年並みの売上だが、先行きの不安感がある。道央圏は順調だが道北・道東方面の状況があまりよくない。地方自治体の動きが縮小傾向でイベントも減少している。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこの売上については、オフィス・レストランなどの喫煙規制と喫煙人口の減少などに加えタスポ導入が少なからず影響しているところに、10月1日のたばこ税増税による大幅な値上げの実施により一層厳しさが加速することは必至。おそらく回復の兆しはしばらく無いであろうと予想する。 ・環境対応車購入補助金が予想より早く終了したため、需給できなかったお客様が予想以上に多くなってしまった。お客様への説明や、値引き対応などの対応が今後必要となる。補助金終了後、新車受注は弱含みで今後どのように推移するか懸念される。 ・9月に入り本格的に秋物商品に以降したが、残暑の影響でブルゾンなどの重衣料や長袖アイテムの動き出しが例年よりも遅く厳しい状況。 ・石油製品は円高傾向により、元売は需要期をひかえ設備の安全点検を行うために在庫を縮小。しかし販売価格の市況は価格の変化が起こっており、生産・需要・価格・バランスが見込まれていない。当分は緩んだマーケットも改善に向かうか疑問である。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・個人消費は政策効果もあり持ち直しの動きが続いているが、国内宿泊客は減少している。インバウンドで客数が前年比増も売上げ減少、公共投資の減少も響き足元の環境は厳しい状況。 ・稼働率は前年並みであるが販売価格下落。しかし経費削減により利益は確保。シルバーウィークがない分、第4週の集客が不安であったが、なんとか集客できている。冷房費やガス代が前年より高くなっている。 ・今月も仕事はあったものの利益率は低く、資金繰りが悪化している。並びに材料の単価も上がってきており、先行きが不安である。 ・8月は夏まつり・学会などで客の入り良かったが、9月は目立ったイベントがなく、大きな期待は持てない。紅葉時期に入り、地方からの登山客に期待するが期待は薄い。

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	仕入単価 DI16.7 ポイント悪化。売上 DI22.7 ポイント、採算 DI2.0 ポイント、従業員 DI7.8 ポイント、資金 DI4.6 ポイント回復、総じて業況 DI も 2.1 ポイント回復となった。業種別では、総合工事 13 ポイント悪化。設備その他 10 ポイント、建築業 13 ポイント回復となった。前年に比べ売上は幾分か回復してきたが、採算が悪い・また資材価格の高騰感があり、業況はまだまだ厳しいとの声も寄せられている。
製造業	資金 DI22.2 ポイント回復。売上 DI11.2 ポイント、採算 DI14.8 ポイント、従業員 DI11.1 ポイント悪化。仕入単価 DI 横ばい、総じて業況 DI も横ばいとなった。業種別では、印刷出版 7 ポイント、金属窯業他 12 ポイント回復。食料品 35 ポイント、家具木材 14 ポイント悪化となった。スーパー本体で製造するものが増えている。また、低価格の卸売り業者も参入しているため、厳しい業況であるとの声も寄せられている。
卸売業	売上 DI14.8 ポイント回復。従業員 DI、資金 DI 横ばい。採算 DI7.4 ポイント、仕入単価 DI3.7 ポイント悪化、総じて業況 DI も 7.4 ポイント悪化となった。業種別では、その他 11 ポイント回復。機械鋼材横ばい。繊維 67 ポイント、食料品 13 ポイント悪化となった。日本列島を襲った春先からの天候不順による特に生産物の生産量・品質の低下による影響は大きく、数字に表れたとの声も寄せられている。
小売業	売上 DI40.1 ポイント、採算 DI15.6 ポイント、仕入単価 DI18.9 ポイント、従業員 DI4.2 ポイント、資金 DI9.9 ポイント悪化、総じて業況 DI も 16.2 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品 17 ポイント回復。自動車横ばい。食料品 17 ポイント、家電時計他 57 ポイント悪化となった。環境対応車補助金終了後、新車受注は弱含みであり、今後どのように推移するのかが懸念されるとの声も寄せられている。
サービス業	売上 DI22.8 ポイント、仕入単価 DI9.1 ポイント、従業員 DI4.5 ポイント悪化。資金 DI 横ばい。採算 DI4.6 ポイント回復、総じて業況 DI も 4.6 ポイント回復となった。業種別では、クリーニング 100 ポイント、整備業 33 ポイント悪化。その他横ばい。ホテル 30 ポイント、飲食 50 ポイント、運送 20 ポイント回復となった。今月も仕事はあったものの利益率は低く、材料の単価も上がってきており、先行きが不安であるとの声も寄せられている。